

2019年2月18日
第116号

全労連

全労連
憲法・平和グループ

憲法 平和闘争ニュース

辺野古に基地はつくらせない!!

沖縄の未来を切り拓く 2・24 県民投票で民意を示そう!

あと 1 週間、全国から連帯した取り組み強化を

「辺野古米軍基地建設のための埋立ての賛否を問う県民投票」の投票日まであと1週間と迫っています。沖縄のたたかいと連帯した集会や宣伝などが全国各地で取り組まれています。15日から実施されている期日前投票は、知事選の2倍に上っているとの報道もされており、関心の高さが示されています。共同通信社が16、17両日に行った世論調査では、投票に行くと答えた人のうち「反対」を挙げた人は67・6%で、「賛成」は15・8%、「どちらでもない」は13・1%、政府は投票結果を尊重するべきだとの回答は全体の86・3%に上っています。沖縄から、全国から「新基地建設NO!」の世論で安倍政権を包囲していきましょう。

埋立てに反対なら、賛成に×でなく「反対に○」を

政府のやり方にワジワジしているなら「反対に○」を

全労連は2月15～17日、辺野古連帯・沖縄県民投票支援行動に取り組み、単産・地方組織から26人が参加しました。参加者はハンドマイク宣伝、全戸ビラ配布、スタンディング行動などに取り組みました。長尾・森田両副議長、沖縄県労連・穴井議長は、宣伝カーから訴えました。

宣伝行動では、「海底にマヨネーズのような軟弱地盤があり、その深さは90メートルにも達し、埋立ては技術的に



難しい。完成まで13年以上、建設費は2兆5500億円という膨大な税金が使われる」などの問題点を指摘し、「みなさんの埋立て反対の思い・願いを『反対にマル』で示してください」「埋立てに反対だからと、賛成の欄にバツをつけると無効票になります」「政府のやり方にワジワジしている(怒っている)から投票に行かないというのではなく、投票に行つて『反対にマル』を」「県民の心を一つに行動すれば、大きな力となって政治を動かすことができます」と、訴えました。ベランダに出て訴えを聞いてくれる人、車から手を振ってくれる人、ジュースやサーターアングギーなどの差し入れを持ってきてくれる人などがいて、県民のみなさんと連帯してたたかっていることが実感できた取り組みとなりました。



16日、安保破棄中央実行委員会の辺野古見学に合流。船に乗って海上から埋立て現場を見学。抗議をするカヌーの人たちを海上保安庁の人がカヌーからおろして連行していました。「不当な弾圧をする



な」「国民のための仕事をしろ」と抗議の声があがっていました。

下船後、土砂を積み出している琉球セメントの棧橋を見学しました。

16日夕には、「新基地建設反対県民連絡会」が県庁前広場で開いたラストスパート集会に参加。日本共産党の赤嶺政賢衆議院議員らがこのたたかいへの熱い思いを訴えました。



★当面の取り組み★

沖縄連帯「全労連大宣伝行動」

2月19日(火) 12時～13時 新宿駅西口

総がかり行動実行委員会「19日行動」

2月19日(火) 18時30分～ 国会正門前を中心に

* 憲法共同センターは南庭

* 普天間基地の5年以内の運用停止の期限が切れます。

3月19日(火) 18時30分～ 国会議員会館前